

令和3年度 第11回 江南区自治協議会

日時：令和4年3月29日（火）午後2時

会場：江南区役所 302会議室

1. 開会

○土田地域総務課長補佐

本日は、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。定刻になりましたので、令和3年度第11回江南区自治協議会を開催させていただきます。

当会議につきましては公開することとし、記録作成のため録音及び撮影をさせていただきますのでご承知おきください。なお、本日の会議は取材のため報道機関が入っておりますので併せてご承知おきください。

なお、本日は、自治協の議題に入ります前に、市長と区自治協議会委員との懇談会として、中原市長より「令和4年度新潟市の取り組み」について説明します。使用いたします資料は、事前送付した資料の「令和4年度新潟市の取り組み」です。それ以外の資料は、後ほど確認させていただきます。

市長から説明ののち、委員の皆さんとの意見交換を行います。本日は区自治協議会委員との懇談の場であることから、ご発言は委員の方に限らせていただきます。懇談会は全体で概ね1時間を予定しております。

2. 会長あいさつ

○土田地域総務課長補佐

それでは、開会に伴いまして、はじめに、小林会長からご挨拶お願いいたします。

(会長あいさつ)

○土田地域総務課長補佐

次に議題に入りますが、ここからの進行は小林会長にお願いいたします。

3. 市長と区自治協議会との懇談会 「令和4年度 新潟市の取組み」について

○小林会長

それでは、今日は中原市長をお迎えしております。これから、市長からいろいろとお話を伺いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

さっそくですが、中原市長よろしく願いいたします。

○中原市長

皆さん、こんにちは。本日は、自治協議会の前のお時間をいただきまして、年度末で大変お忙しいところ、自治協議会委員の皆様からお集まりいただきまして誠にありがとうございます。また、日ごろから皆様には地域の協働の要として、地域の課題解決にお力添えをいただいておりますことを改めて感謝とお礼を申し上げたいと思います。

本日は、令和4年度新潟市の取組みということで、市の予算も含めて説明をさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

新型コロナウイルス感染症への対応も3年目を迎えて、先般、まん延防止重点措置が解除されましたあとも、依然新規感染者は高止まりをしている状況です。引き続き、感染防止対策に市民の皆様からご協力をお願いしたいと思います。

本日は、3月23日に審議会に向け作成いただきました、令和4年度当初予算案について簡単に説明をさせていただきます。ただし、区づくり予算については、自治協議会の皆様に区の担当者からすでに説明済みであると聞いておりますので、本日は省かせていただきます。

また、新潟市の総合計画であります、にいがた未来ビジョンが令和4年度で最終年度となりますので、次期総合計画策定に向けた取組みについても一言触れさせていただきます。

資料4ページをお願いします。4月から始まります、新年度予算の力点です。現在、市政の最優先課題は、新型コロナウイルス感染症から市民の命と健康を守り、1日も早く平穏な日常生活を回復させることです。そのため、感染拡大防止対策と経済社会活動の再興の取組みを両輪で進めていかなければなりません。

また、全国的に人口減少、少子高齢化が進んでおり、実は本市も、令和2年の国勢調査では前回調査から約2万人の人口減少となっております。最重要課題として、この人口減少時代に適応した、持続可能なまちづくりを実現することに力を注いでまいります。こうした点を当初予算編成の力点に置いております。

5 ページをお願いします。令和 4 年度一般会計当初予算の規模としましては、前年度との比較で 58.5 億円、1.5 パーセント増の総額で 3,924 億 5,000 万円となります。今ほど申し上げました、感染拡大防止対策と経済社会活動の再興に向けた取組みについては、感染の状況を踏まえまして、今年度の 12 月および 2 月補正予算として約 136 億円を計上していますので、新年度の予算と併せて一体的に対策を講じていきます。

6 ページです。持続可能なまちづくりを進めるためには、なにより強固な財政基盤を確立することが必要です。強固な財政基盤なくして十分な行政サービスも投資も行うことができません。

新潟市は、令和元年度から 3 年間集中改革プランに基づく行財政改革を進め、財政基盤の確立に努めてまいりました。その改革を進めてきた効果は、全体で 376 事業、58 億円余りとなりました。この効果額を、こども医療費通院助成の拡大といった子育て施策の充実や企業誘致、産業の D X 推進など重要課題に活用してきております。

財政については、収支均衡した予算を堅持でき、基金残高については、市長就任時の 33 億円から、当面 80 億円は必要ではないかということで、80 億円を目標にしておりましたが、80 億を超え 100 億円台となる見通しです。

市の借金にあたります市債残高については、今年度末で 3,802 億円となる見込みであり、投資的経費の厳正な事業選択による縮減を図り、2026 年度には 3,355 億円まで減らしていく推計としております。この 3 年間で行財政改革は一定の成果を出すことができつつあると考えております。

今後の大きな課題といたしましては、財産経営のさらなる推進ということです。ご案内のとおり、合併によって新潟市は公共施設の面積が大変多くなっておりまして、その維持管理に多額の費用を要している状況です。そこで、財産経営推進計画をこの度改定いたしまして、基本方針としては、サービス機能はできるだけ維持しながら、施設の総量を削減するというものを掲げております。次の世代の市民が安心・安全に利用できる施設となるよう最適化を進めてまいります。

来年度以降ですが、地域の皆様と丁寧な対話を重ねながら、市・区単位など利用圏域の広い施設の再編や、地域密着施設の中学校区単位の再編を段階的に進めてまいります。

10 ページをお願いします。これは、現在の感染状況です。第 6 波に入りま

して、感染力の強いオミクロン株によりまして、今年に入って1月は、一番右側の棒グラフになります。1か月で4,200人超の感染者、2月は6,000人超の感染者が確認され、過去最多の感染となっております。現在は、10歳未満の子どもの感染が特に多くなってきており、各施設、学校ですとか放課後児童クラブなどで懸命な感染対策に取り組んでいただいておりますけれども、どうしても子どもたちが密になりやすいということで、感染が家庭内で広がっております。

一方、感染リスクの高い高齢者施設については、一時期クラスターなどが相次ぎましたが、現在は疫学調査やワクチンの3回目の接種の効果なども奏効して、効果が出ているということで、現在は落ち着きはじめております。

次のページです。昨年12月から、医療従事者などの3回目の接種を開始いたしまして、現在は市民の皆様から個別接種あるいは集団接種会場で3回目の接種をいただいております。3月上旬からすべての年代で、2回目の接種から6か月前に接種券を発送しておりますので、接種券が届き次第、皆様から予約をしていただき、接種をご検討いただきたいと思います。現在の接種率ですが、3月22日時点で42パーセントとなっております。

続きまして、13ページをお願いします。新年度ですが、今申し上げましたワクチンの3回目接種の集団接種会場の運営などの体制を整えてまいります。また、医療機関で行うPCR検査を引き続き支援するなど、医療提供体制の安定を図っていきます。

15ページをお願いします。一方で、経済社会活動の再興に向けましては、新年度から地域のお店を応援するとともに消費を喚起する必要がありますので、「地域のお店応援商品券」の第3弾になります商品券を発行するほか、公共交通も大変打撃を受けております。利用者を開拓、増加するために、バスやタクシー利用者のすそ野を広げていきたいと思っております。

また、令和2年度に実施して好評を博しました、市内の農水産物を送る際にその送料を全額負担いたします「にいがた贈ろう！農水産物産地直送支援事業」を拡充いたしまして、需要の喚起や消費の拡大につなげてまいります。

16ページをお願いします。次に、当初予算編成のもう一つのポイントである「選ばれる都市新潟市」の実現に向けた取組みについてです。昨年2月ですが、「選ばれる都市新潟市」という、まちづくりの方向性やビジョンを公表させていただきました。これは、新潟市の新しい未来を切り拓くため、

「ウィズコロナ・ポストコロナ時代のまちづくり」について小冊子を取りまとめ、記したものです。

「選ばれる都市新潟市」を「暮らしやすいまち」、「訪れたいまち」、「ビジネスを展開するまち」の三つの分野に分けまして、新潟市が選ばれる都市になるために行う新年度の取組みについてご説明いたします。

17 ページです。まず「暮らしやすいまち」の、安心して子どもを産み育てられるまちに向けては、結婚・出産・子育て期の切れ目ない支援として、市内の企業や店舗と連携し、結婚を応援する機運の醸成や結婚に伴う新生活の支援などを行うことによって、出会いや結婚を支援していきたいと思っています。

また、様々な課題を抱えておられる家庭を包括的に支援いたします。子ども家庭総合支援拠点を設置するとともに、各家庭の状況をお聞きし、相談にきめ細かく応じる保育コンシェルジュを各区に設置いたします。

また、こども医療費通院助成の拡充を継続するとともに、企業の皆様から協力をいただいております「にいがたっ子すこやかパスポート」の広域連携を拡大し、子育て家庭へ支援を行ってまいります。

次に、18 ページです。子どもたちが学ぶ教育環境の充実については、学習プログラムの充実に向け新たなプログラムを開発し、若者の食と農への関心と地域への誇りと愛着を育てていきます。G I G A スクール構想の推進に向けては、特別支援学校、小中学校で1人1台端末の整備を終えております。運営支援センターを整備、開設し、学校への支援をワンストップで担うとともに、I C T 支援員を学校に配置いたしまして、学校の先生方や児童生徒のI C T 機器の活用を支援してまいります。

また、地域とともにある学校づくりを目指し、保護者や地域住民が学校運営に参画いただくコミュニティ・スクールを全校で実施いたします。

19 ページです。次に、「暮らしやすいまち」の地域共生型のまちづくりや災害に強いまちづくりについて、健康長寿社会の実現に向けて、認知症予防のための補聴器購入費の助成を行っていきます。だれもが安心して暮らせる環境づくりとして、特別な支援が必要な子どもたち一人一人のニーズと課題に対応する体制を強化し、障がい者理解の推進や学校生活において、医療的なケアが必要な子どもの支援体制を充実するなど、就学前から社会参加まで一体的な支援を展開してまいります。

災害に強いまちづくりに向けてです。去る 3 月 16 日夜に福島沖を震源とする地震が発生しまして、死亡や負傷者、東北新幹線の脱線など被害が生じたところです。災害はいつ起こるか分からないことに対して、日ごろの備えが非常に重要であるということを改めて認識したところです。

新潟市といたしましては、自主防災組織の結成・活動を支援し、地域における防災活動の活性化を図るほか、平成 29 年度に新たに津波浸水想定区域となった地域への防災行政無線の整備を完了させていきます。

20 ページとなります。次に、「訪れたいまち」を目指した取組みについて、日本海側拠点都市としてふさわしい都市機能の強化として、新潟の都心地域が都市再生緊急整備地域に国から指定されましたので、都市機能の更新と充実に向けた都市の再整備を推進していきます。

また、新潟駅が新しい姿を現し始めまして、これまで工事をしてきておりました高架化工事が、来る 6 月 5 日に完了することになりました。今後は、駅直下バスターミナルや新しい万代広場といった周辺整備が残っておりますので、着実に進めてまいります。

観光事業の回復ですが、なかなか新型コロナウイルス状況が長引き、また継続して拡大しておりまして、なかなかタイミングを捉えることが大変難しい状況ですけれども、引き続き感染状況を見極めつつ、観光資源の魅力向上や誘客、誘致活動を推進するほか、新しい新潟駅観光案内センターを駅の中に今後、整備を進めてまいります。

21 ページです。次に、ビジネスを展開するまちの取組みについてです。成長分野のイノベーション推進に向けて、生産性向上に加えて、脱炭素化に資する設備投資への支援により、中小企業者の競争力強化を図っていきます。企業の成長段階に応じたきめ細かな支援に向け、中小企業者の皆様の新事業展開や事業の再構築への取組みを後押しするとともに、円滑な事業承継を進めていきます。

次に 22 ページです。戦略的な企業立地の促進に向け、企業立地ビジョンを策定するとともに、首都圏をはじめとした市外企業の立地を促進します。また、新たな工業用地をはじめとした立地の促進と雇用機会の増大を図るため、進出する企業の用地取得費などの一部を助成するとともに、助成対象についても拡大をいたします。

持続可能な農業の推進に向けては、農業用ハウスや果樹棚といった農業用

施設を承継する農業者の方への支援を行います。また、新潟市が先進的に取り組んでおりますスマート農業の導入支援や園芸産地の維持拡大へ支援を引き続き行っていきます。

次に 23 ページです。都心のまちづくりにつきましては、約 60 年ぶりに新潟駅がリニューアルをされますこのタイミングで、ウィズコロナ、ポストコロナ時代のまちづくりのビジョン「選ばれる都市新潟市」を公表させていただきました。この整備が進んでおります新潟駅から万代・古町をつなぐ都心エリアを「にいがた 2 k m」と呼称しまして、「にいがた 2 k m」エリア一体としてまちづくりを進めることで、魅力をよりアピールでき、都市としての価値をより一層高めていきたいと思っております。「にいがた 2 k m」で生み出される活力を 8 区全域に波及させていきたいと考えております。

そこで 24 ページ、にいがた 2 k m の覚醒は、新潟市の都心のまちづくり推進本部というところで、まちづくりの基本方針や推進項目を整理したものです。都心のまちづくりの基本方針といたしましては 3 本。一つ目が、人・モノ・情報の中心拠点となる稼げる都心づくり、二つ目が都心と 8 区の魅力・強みのコラボレーションによる新たな価値の創造、三つ目が居心地がよく、市民が主役になるまちづくりの 3 本柱を掲げております。その柱のもとに事業を整理いたしております。以下、時間の関係で説明は省かせていただきます。

36 ページをお願いします。次期総合計画についてです。2023 年から 2030 年における次期総合計画の策定を新潟市で進めております。皆様からは 10 年先を想像し、こんな新潟であつたらいいなということをご提案いただき、形にしていきたいと考えております。

37 ページです。今年度は、さまざまな形で将来の新潟市についてご意見をお聞かせいただきました。各区の自治協議会委員の皆様からは、目指す区の姿について議論をいただき、貴重なご意見をいただいたところであります。誠にありがとうございました。このほか、定量的なご意見もお聞きするため、市民から無作為抽出による市民アンケート調査や団体の皆様を対象とした団体アンケートなどにより、幅広くご意見をいただいております。

最後に、38 ページです。今後の策定スケジュールについてです。今年度、お聞かせいただきました市民や団体の皆様のご意見をもとに、今年も 4 月を目途に、計画のもととなる素案を策定いたします。6 月以降には、素案をも

とに有識者の皆様から審議をいただくとともに、パブリックコメントなどを経て成案を策定します。12月には、成案を市議会へ提案し、議決をいただきたいと考えております。年明けころからは冊子が完成し、令和5年の4月から次期総合計画がスタートというスケジュールで動いてまいりたいと考えております。

以上、大変駆け足で、また事業の内容も一部でありますけれども、皆様にご説明をさせていただきました。新年度におきましても明るい未来を切り拓き、選ばれる新潟市の実現に向けて全力で取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続き自治協議会委員の皆様からご指導、ご助言、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。説明に代えさせていただきます。ご静聴、大変ありがとうございました。

○小林会長

どうもありがとうございました。

続きまして、意見交換ということにさせていただきたいと思っております。今ほど、縷々説明いただいた内容等を踏まえまして、皆さんから数多くのご意見を頂戴したいと思っております。また、ご質問の際は、その内容を簡潔明瞭にお願いしたいと思っておりますが、よろしくお願ひいたします。どなたか、市長にまずこんなことをお聞きしたいというようなものはございませんでしょうか。

○横木委員

両川地区コミュニティ協議会の横木です。来年度の取組みの中で、地域の公共交通とか、それについて触れられている部分が、未来に向けたバス・タクシー利用者支援というような項目しかないと思うのですが、その費用はどういうふうな形になっているのでしょうか。

○中原市長

まず、バス・タクシー利用支援につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響で、バス・タクシーの利用者が減少しておりますことから、バスにつきましては、りゅうとカードのチャージを新中学1年生、2年生を対象に行わせていただきます。タクシーにつきましては、1回乗ると300円でしょうか。もう一度乗っていただくための利用促進ということで、300円のクーポンを利用者にお配りをしているところです。

それから、各地域のそれぞれのコミュニティバス、区バスにつきましては、こちららも正確な状況は報告を受けていないのですが、やはりコロナの

影響で利用が減少してきていると思いますので、新潟市として現在、しっかり支えていくということが必要になろうかと思います。

○横木委員

できれば、何かその辺を入れていただきたかったと思います。

○中原市長

新しい試みとして、北区から試行的に始めようと考えているのですがけれども、バスタクといいまして、バスが通行するところまでタクシーで、固定の地域になるかと思えますけれども、タクシーでバスが通る地区のところまで人を運んでいこうという実証実験を来年度から始めさせていただき予定にしております。うまく、それが機能するようであれば、今後各区に広げていこうということにしております。よろしく申し上げます。ありがとうございました。

○小林会長

今の、バスタクの関係が今日の日報にたしか記事が出ていたと思います。

そのほかに、市政全般にかかわる何か皆さんからご意見をいただきたいと思えます。

○渡邊委員

亀小コミュニティの渡邊と申します。よろしくお願いいいたします。

先日、新潟交通の支援ということで、市長が交通とお話されている記事とテレビを見たのですがけれども、連節バスというのですか。大きい。実は、あそこに人が乗っているのを見たことがないのです。

私は西区出身ですがけれども、以前は古町までバスが行っていたのですが、連節バスができて、わざわざ青山で乗り換えて行くということになったのです。そしたら、みんな地元の人がすごく不便で、もう古町へ行かなくていいと。そうすると、もう青山にイオンができたし、アピタもあるのでありますが、古町の活性化というお話があるのですが、なかなかそういうことがあると、古町には行けないのと、行くことがやはり不便だという話を聞きます。

実は亀田も、以前は亀田から古町までバスがあったのですが、同様にバスセンターまでしかいかなかったのです。そうすると、本当にほとんど古町に行くことはないのです。古町にこだわられているのかどうか分からないのですがけれども、これからは高齢化社会になって免許を返納すれば当然、公共の交通を使って出歩くということになると思うのですがけれども、各地区にコ

コミュニティバスとかもっと小回りをきかせて、免許を返納した方とか子どもがいてなかなか車で出られないという方のために、もう少し小回りのきくようなバスの協力をしていただけて、いろいろなところへ足が運べるようになるといいと思っているのです。今後も、やはり連節バスは必要とされて運行するという予定なのでしょうか。

○中原市長

どうもありがとうございます。最近の地域のバスは、区長からお答えさせていただきます。

○区 長

ありがとうございます。いつもお世話になっています。おっしゃる生活交通は、地区内を回る、いろいろな買い物拠点であったり、医療の拠点であったりというところを回るという足については、これまでも区バス、住民バス、特に江南区はけっこう区バス、住民バスがよく頑張っていて、ネットワーク的にもほかの区に比べると進んでいるところではございます。ただ、いろいろ使っていらっしゃる方の中からご意見が出てきております。区バスや住民バスもそうですけれども、やはり普段の見直しをするといった中で、より利便性、ニーズに合ったような形の整備はこれからもやっていきたいと思っております。

また、単純に区バス、住民バスというバスだけではなくて、最近大江山で買い物支援という形で、福祉車両を使って買い物支援をするという取組みもやっていますので、全体としてやはりバスにも限界があるので、大江山の事例なども踏まえながら、よりよく皆さんに生活してもらえるための足を確保していきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

○中原市長

連節バスのお話です。まず、BRT新バスシステムというものを新潟市は導入いたしました。これはどういうものかといいますと、それまでは中心地にバスが非常に非効率にたくさん走っていたものを集約して、郊外の振り向けていこうと。バスの利用者がどんどん人口減少によって減ってまいりますので、それだけでも大変なことで、そうしたことに合わせていこうということで、新たなシステムを導入したと認識をしております。

私が市長に就任しましてからバスの見直しを行ってしまっていて、連節バスにつきましては現在、4台走っていますけれども、その後、もう4台購入する

予定があったのですけれども、現在、新たな購入につきましては凍結とさせていただきます。

それから、今いただいたようなご意見をどこの区に行きましても、実はお話を頂戴しているところです。バスの運行ということについて、私も含めてですけれども、実際の運行というものを管理する立場から眺めることはなかなか難しいと思っています。朝晩の通勤、通学の際には連節バスも含めてたくさんの方々が、学生ですとかサラリーマンの方が利用しているのですけれども、日中ということになりますとどうしても利用者が少なくなりますので、空かどうか分かりませんが、あまり乗っていないバスをどこでも見受けられるのです。

交通利用者の立場からいいますと、やはり運転手を確保して、それで走らせないというわけにはいかないです。1日朝から晩まで、数百本ある路線をネットワークで走らせているわけですので、そうした問題があるということ、また皆さんから少しでけっこうですのでご理解をしていただきたいと思います。

○渡邊委員

ありがとうございました。

○小林会長

ほかに、何か皆さんございませんか。

○藤田委員

大江山コミュニティ協議会の藤田と申します。よろしく申し上げます。

質問が二つあります。一つは、人口流出。新潟市は人口流出のことがたまに出ていますけれども、私としてはもやとした理由、なにか原因が思い浮かぶのですけれども、新潟市としては、どういうことが一番大きいのかということ、何を把握しているのかということ、聞かせてもらうこと。

もう一つが、子育ての支援ですけれども、最近、私は孫が生まれまして。ありがとうございます。すくすく育てています。子育て支援で、パパ、ママがけっこう、だんだん広まってきたのですけれども、このあとじいちゃん、ばあちゃんも、ママの代わりに育児休暇を1年ばあちゃんが取れるとか、おじいちゃんのほうも現役で仕事をしている場合は、子育てを一生懸命頑張れるような何か支援があったらいいと思うのですけれども、新潟市は何か予定でもありますかでしょうか。二つ教えてください。

○中原市長

新潟市の人口減少の原因ですけれども、一つは社会減として、進学や就職の際に、若い世代の皆さんが県外に出てしまうということが一つあります。それから、自然減として今お話いただきましたけれども、子どもの出生数が少ないということ。そして、高齢化率が高くなっていくこと。高齢化率が高いということは若い人が少ないということです。若い子や、こういう言い方が適切かどうか分かりませんが、子どもを産める年代の方が少ないということが考えられると考えております。まずは、そうした状況の中で、結婚から出産、子育て支援と切れ目ない支援を、新潟市として財源の問題もありますけれども、そうした関係の中で拡充していきたいと。

○藤田委員

ありがとうございます。じいちゃん、ばあちゃんについては。

○中原市長

社会の、子育ても経験されて、人生を長く生きて、経験豊富な方々ですので、おらかな気持ちで支援をしていただければと思います。

○藤田委員

どうもありがとうございます。頑張ります。

○西脇委員

曾野木コミュニティの西脇です。よろしくお願ひします。今ほど藤田さんからあった話と関連するのですけれども、盛んに新潟県から出ていった、都市部にしろ、いろいろな地域に行った若者たちを呼び寄せる。また、ほかの地区の人たちという部分で一生懸命考えられていることは分かるのですけれども、そもそも新潟から出なくて済むような子どもたちもいるのではないかと思うのです。

私も進学を経験した、子育てを経たのですけれども、やはり県外に国立などの大学はたくさんあります。学力の差ではないのですけれども、そういう部分はしょうがないのかと思うのですが、新潟市にも大学がたくさんありますので、そもそも出なくてもよいという取組みを今後、5年、10年、15年という長いスパンで考えていращやるのか、どうなのか。出ていくことはその世代の考えもありますのでしょうがないのかとは思いますが、やはりどうしても向こうで学校を経てそのまま就職ということが周りを見ても非常に多いので、何かその辺、そもそもの部分をもう少し。急には魅力を

つけられないと思うのですけれども、もう少し考えたものを発信してアピールをしていって、若者たちに考える時点で検討していただける材料がもう少しあってもいいのかと思います。

今、「にいがた2km」の部分であったりとか、新潟駅の部分でそもそもバスが行き来できる。人が行き来できる部分の、南口とのやり取りがあると思うのですけれども、この部分で新潟市としては財政の部分とか、今、建物を整理している段階なのでなかなか大きいことはできないと思うのですけれども、そもそもあそこをつなげて南地区から市民病院方面に、どのような開発というとまたお金の問題になると思うのです。将来的に鳥屋野潟周辺をどういうふうにしていこうかというビジョンをお持ちなのかということが、もし少しでもあれば教えていただければ。

○中原市長

ありがとうございました。大変貴重なご意見をいただいたと思っています。

まず、県外に出ていかななくてもいいような対策をとるという表現を、言葉を変えるとすると、私たちが唱えさせていただいています、選ばれる都市ということと共有する部分があるのかと考えております。現実には、全国の学校の、大学の3割が首都圏に集中しておりまして、新潟も首都圏と近いということから、国公立、私立の大学に進学する人があるということでもあります。そうした教育面において、できるだけ地元に残っていただきたいと考えておりまして、そのためには子どものうちから、やはり地域に対する愛着、誇りのようなものを育ていこうということで、先ほどお話しさせていただきました学習プログラムの充実に向けて、現在は取組みを進めております。

また、社会教育といいますか。地元でこういう企業があるのだということも、企業の皆様から学校に来ていただいて、教えていただいてというような取組みがあります。地道な活動になろうかと思いますが、そうしたことを拡充していきながら取り組んでいきたいと思っています。

鳥屋野潟南部開発計画という計画がありまして、現在、住居・交流ゾーンというものが有りますけれども、今回は住居ゾーンを住居・交流ゾーンということで、亀田郷土地改良区と新潟市と新潟県が協議をしまして、これまでの住居ゾーンから住居・交流ゾーンという形で併合させていただきました。現在、区画整備組合の住民会ができて、それぞれ企業の利用地の準備を進めております。具体的な名前は申し上げられませんが、倉庫型店舗など

を組合側で、あるいは開発事業者で交渉していると聞いています。

○西脇委員

ありがとうございました。

○小野委員

酒屋町商工会の小野でございます。いつもどうもお世話になっております。

また、渡邊委員と重複するのですが、「にいがた2km」のところのお話になります。私ども酒屋商工会の酒屋町ですが、中原市長は内野のご出身だということで、旧新潟市の中でも外側にあるまち、もともとあったまちのご出身かと思えます。

最近、酒屋町のまちめぐりのツアーみたいなものがコロナ禍にありまして、住んでいる者としては非常に複雑ではあるのですが、けっこう盛況と申しますか。これが、昭和のまま開発が止まってしまったような、逆に魅力を感じるようなところがあるようで、再発見をされているというように感じるところかと思えます。利便性ですとかバスがいろいろ不便になってきてとか、いろいろ住民としては不満もあるのですけれども、昔ながらのまちがそのまま残ってしまっているがゆえに、魅力を再発見みたいなおところにつながっているのかと感じております。

導入の「にいがた2km」に関してのところ、少し似たような部分があるのかと考えている部分がございます。もともと新潟市のまちというのは古町よりも、どちらかというところと港側の雪町とか花町と言われている株川岸町とかあちらのほうにまちの中心があったのが、古町のほうに移転して、これがやはり万代のほうにという形で、時代とともにまちが変わってきてあるという部分があるかと思えます。

古町のここ最近、私はけっこう酒飲みなので、コロナ禍で行けませんが、古町大好き人間なのですけれども、行けてはないのですけれども、あまり手を加えてしまい過ぎるということも、その魅力を失ってしまうことにつながりかねないという懸念もあるので、手前どもの委員は伊藤さんとか景観アドバイザーなどもおりますけれども、開発一辺倒ではなくて、そもそも新潟のまちがどういうものなのか。またブラッシュアップしながら、その魅力を再発見していく中で、古町なんか用事がないというお声もあることは重々承知はしているのですが、今あるものをより魅力を高めていく中で、新潟の古町に足を運んでいただくような流れができてくると、「にいがた2km」とい

うことも実効性を伴っていくのではないかと思いますので、意見として発表させていただきます。

○中原市長

ありがとうございました。貴重なご意見をいただきました。時代とともにまちが変化していくということはそのとおりだと思います。先ほどからお話になっておりますように、一口でいうと少子高齢化は簡単なようですが、やはり昔とそれぞれの地域が違ってきていると感じている大きな要因というものは少子高齢化ということではないかと思えます。ざっくばらんな言い方をしますと、子どもたちがたくさんいて、地域で笑い声が絶えなくて人口が増えていった時代には地域に活力があったと思えますけれども、現在はどこの区といわずに、やはり少子高齢化の波が押し寄せて、状況が変化してきていると感じております。

特に、こんなことを言うと米山区長に怒られるかもしれないですが、市長に就任しまして、やはり市役所の周辺の地域の皆さんから言われることは、市役所がまた古町のルフルのほうに戻ってしまって、我々の周辺が廃れてしまったと。こんな大都会で、そういうことが起こっているのかと。つまり、白山や学校町というのは、かつてものすごく人がいたのではないかと思えますけれども、少子高齢化によって、そういうかつてのまち、地域であればあるほどやはり変化が嬉しくないということの表れではないかと考えております。

新潟市としましては、古町などをみなとまち、それから芸妓文化であったりということで、それぞれ石畳を残したり、歴史的な建造物もたくさんありますので、そういうものを残そうということで、いろいろな事業をやらせていただいております。いずれにしても、古町の魅力を失うことのないように、また新しい時代になりますので新たなことなどに、特に百貨店などが撤退して古町の皆さんは大変変化が大きいものですから、今後また新潟市と民間と協力しながら活性化に努めていきたいと思えます。

○石井委員

東小コミュニティ協議会の石井です。よろしく申し上げます。新潟駅周辺地区の整備というところで、私はこの整備が進むと、単純に弁天橋通りから走ってきて一般車両が東大通のほうに抜けられるのかと思ったのです。けれども、報道によりますとどうやらそうではなくて、そういうことはないとい

うことを聞いたことがあるのですけれども、その辺はJR側の都合なのか、その辺をお聞かせいただければと思います。

○中原市長

ご質問ありがとうございます。まずは、6月5日に全線高架化になりました。今、万代口から駅に向かって、昔から右側にバスターミナルがあります。そのバスターミナルが今度新しい駅になりますと、左側のロイヤルホスト側にいきまして、駅の真下にバスターミナルが整備されることになります。そこは、飽くまでもバスのターミナルでありまして、バス専用の道路だと皆さんから思っていたきたいと思っております。一般の車が通行しますのは、これ以外に3本あります。今、新潟鳥屋野潟の線というものは八千代橋から駅南に1本完成しておりますけれども、それに加えてまして駅西線、駅東線、明石跨線橋をいずれ平面道路にするとというものがあまして、一般の乗用車につきましては、そちらの道路を使っていたくとしていただきたいと思っております。

新しい新潟駅ですけれども、設計の思想として、一般車両とバス交通は交差させないということが、新しい駅の設計理念といたしますか。設計基本ということで、皆さんからご理解をいただきたいと思えます。ただし、今、新潟市が検討しておりますのは、深夜バスが通行できなくなったときには、タクシーは利用させていいのではないかと検討しているところです。どうぞよろしく申し上げます。

○石井委員

ありがとうございました。

○小林会長

そろそろ時間もおしてきております。最後に、山崎委員。

○山崎委員

大江山の山崎です。よろしく申し上げます。31ページでしょうか。新潟駅・万代地区周辺の良い景観形成の推進とありますけれども、私も、今後ここら辺はもう劇的に変わっていくのではないかと思っているのですが、実際に子どもたちが夢を見れるようなといいますか。具体的に、例えば観覧車を設置するとか、昔みたいなレインボータワーを作るといようなそういったビジョンはお持ちでしょうか。

○中原市長

最近、道路の使い方というものが少し変わってきておりまして、道路は車が通ると当然言われて、また皆さんもそうお思いだと思いますけれども、もう少し道路を賢く使おうということで、歩けるようにするという取組みが進んでおります。それで、東大通、新潟駅前が一番大きな通りになりますけれども、現在は分離帯もありますけれども、そこを少し狭めて、車が走る車道を狭めて、そして歩けるような空間を作っていこうではないかということで現在考えているところであります。また、それぞれいくつかのところで、道路を利用しながら子どもたちを遊ばせたりというような実証実験を今行っているところです。

○山崎委員

こちら辺とも限らないのでどこでもいいのですけれども、他都市からお客さんが来られたようなときに、ここに連れていきたいというところがあればいいと思っているのですけれども、そういった意味合いで夢が見れるような、そういったところもあったらいいのかと思っているのです。

○中原市長

今、区長がどういう考え方を持っているか試させていただきます。

○区 長

駅のところ、例えば金沢の鼓門みたいなシンボリックなものがあったり、あるいは浜松なんかでいうとタワーがあったりというようなところがけっこう地域の拠点にはあるのですけれども、逆にそういうところに行くこともあれば、どちらかというとも自然を感じさせるようなタイプの駅の作り方というのが今、逆に流行ってきている部分があるのかと思います。逆にそういう使い方をしたほうが、いろいろそこでイベントをやったり、使い方がいろいろ広がる形になりますよね。たしかに、シンボリックなものがほしいというのは意見として必ずあるわけですが、そうでない使い方、駅の風景とか。そういうのも一つ新潟の魅力になってくるのではないかと思います。おそらくそういう方向に今、やっているのではないかと思います。

○山崎委員

分かりました。

○小林会長

本当に最後になります。

○佐藤（弘）委員

私が最後に質問をさせていただきます。横越商工会の佐藤でございます。

現代、世界では本当に安全に対して不安定な状態が続いていますが、日本も例外ではなく、仮にですけれども、核の脅威とかそういうことが起こった場合に、世界最大級の原発を持つ新潟県です。世界的にはシェルター等を持つ国も多くあるとは聞きます。災害時の避難場所としては何十箇所として避難場所として指定してありますが、子どもたちのこれからの将来のことを考えますと、核のシェルターみたいなものを作るような計画はないのでしょうか。

○中原市長

ありがとうございました。今、ロシアのウクライナ侵攻ということで、現実的に戦争が発生しております。いつ何時、災害と同じように、戦争が起こってほしくはありませんけれども、こうした現実を我々は突きつけられていると思っております。国会で真剣に、こうした問題を議論していただけると思っておりますし、また新潟市として市民の命と健康を守るためにも、我々としてできることについては、国などに提言をしていきたいと思っております。よろしくお願いします。

○佐藤（弘）委員

ありがとうございました。

○小林会長

どうもありがとうございました。皆さん、まだいろいろ聞きたいこと、ご意見等あると思います。あとでまた、それを別途取りまとめまして、江南区の自治協議会として、また、市長にいろいろ聞かせていただくような形を取りたいと思います。

時間もおしておりますので、これで懇談会を終了させていただきます。

市長、お忙しいところありがとうございました。

○中原市長

どうもありがとうございました。

(休 憩)

4. 議題

○小林会長

では、次第に沿って進めていきます。まず、(1)新潟市都市計画基本方針について、都市計画課の丸山課長がお出でになっておりますので、ご説明をお願いします。

○丸山都市計画課長

皆さん、こんにちは。都市政策部都市計画課で課長をしております、丸山でございます。本日は貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。

私どもで策定を進めております、本日、資料 1-1 となっておりますけれども、都市計画基本方針、都市計画マスタープランの改定の案がまとまりまして、現在パブリックコメントでございますが、まずその改定の案の内容についてご説明をさせていただきたいと思っております。よろしくをお願いします。

改めて、資料 1-1 の 1 枚目をご覧いただきたいと思っております。都市計画マスタープラン、私は都市マスという言い方をさせていただいたりすることが多ございます。右側の A3 下の点線のところに都市計画基本方針とはとありますが、都市計画法に基づく基本的な都市計画に関する基本方針ということで、本日、議題の次にあります総合計画の区ビジョンという形の部分がありますが、総合計画などを踏まえたそれに基づく分野別の計画の一つという位置付けになります。

江南区の自治協議会の皆様におかれましては、都市計画マスタープラン、今回の部分の区別の構想の内容について少し間が空きますけれども、昨年ご議論いただきました。この場を借りまして、改めてお礼を申し上げます。これまでの間、いわゆる有識者というところによりまして、検討委員会ですとか県の広域計画、関係機関との協議などを踏まえまして、この度区別構想を含む全体の構想がまとまりましたので、パブリックコメントを実施している状況でございます。本日は、その概要についてご説明をさせていただきます。

1. 改定の背景・目的というところでございます。現在のところ、計画が平成 20 年に作った策定の計画でございますが、それから約 10 年経過している状況ですから、人口減少というところの部分ですとか、激甚化・頻発化する自然災害や新型コロナウイルス感染症における暮らし方の変化みたいなどころの部分踏まえたものとか、県の広域の計画が改定作業を併せて進めてございますが、こういった背景から令和 2 年度の 8 月から改定を順次進めています。

2. 改定のポイントでございますが、これまで 10 年ということで、今の基

本方針の中の部分は、三つほどぼちがしてございますが、一番下のところに、人口減少傾向ということで、まだ当時の傾向が見られるという状況下の中で、成熟した社会への対応への方向転換ということで、田園に包まれた多核連携型都市ということの目指す姿として、これまで取り組んでまいったところでございますが、社会情勢の変化として、人口減少、少子高齢化というところと脱炭素といった観点ですとか、自然災害といったどちらからも都心のまちづくりということの方向を出させていただいたのと、新潟駅のリニューアルなども進みつつあるといった状況になります。

そのような状況を踏まえまして、下の囲みにありますように、改定にあたっての方向性としては、これまで取り組んできた多角連携の方向性は継承しつつ、選ばれる都市となるために、市民の利用者と事業者の皆様と政策の方向性を共有する方針することで改定の作業を進めてきてございます。

右側の3. これまでの検討経過でございますが、都市計画、交通、農業などの有識者によります検討委員会を設置させていただきまして、様々なご意見をいただきながら進めてきたところでございます。いただいたもののご意見としましてはコンパクトといたしますか。それぞれの核を大事にしているという考え方、それから都市と田園が共生している新潟市の特徴を一步進んで共鳴する関係ということなど、様々なご意見をいただいたところでございます。

具体的な改定の案の内容について、説明をさせていただきたいと思っております。2枚目をご覧いただきたいと思っております。上段の黄色い部分、第1章という形で位置づけと第2章の都市づくりの視点というところでございます。位置づけとしては、この計画、新しい計画については10年後の2032年、10年間を目標に実行する計画ということで進めてまいりたいということになってございます。

第2章の都市づくりの視点というところにおいては、人口減少等々、繰り返しになりますけれども、そういった分の転換の部分も踏まえて、今後の都市づくりの視点ということで1から5にあるような人口減少の対応をする。やはり人口減少等を和らげていく、持続可能性ということの部分について視点を持って取り組んでいくということをもとめてございます。

その下の3章、これは全市ということになりますけれども、都市づくりの基本的な考え方、理念、目指す都市の姿を記載してございますが、①基本的な考え方、理念という言い方をしていますが、全市レベルでは持続的に発展

する都市。地域レベルとしては、誰もがくらしやすい個性ある地域ということで、これは前回の計画からそのまま引き継いで取り組んでいこうという形で継承してございます。目指す都市の姿としては、都市と田園、自然の多様な魅力が人をつなぐ多角連携都市新潟ということ掲げまして、(1)から(3)にありますように、市街地と田園・自然の共生、共鳴。それから、都市と地域の拠点の機能強化。拠点間の連携強化という三つの要素により、人口減少社会においても選ばれる都市づくりを目指していきたいと考えております。

その下、第4章、都市づくりの方針でございます。目指す都市の姿の実現に向けた具体的な取組みの答申をいろいろ記載してございますが、基本方針1から3が全市的な都市としての部分、4、5が地域の暮らしや個性についてそれぞれ記載をしております。特に1から5に順位づけがあるわけではございませんが、今回は10年の改定でございます。今の状況を反映して、少し読みやすいといえますか。分かりやすい形の順番になるということで、ご理解いただければよろしいかと思っております。

右側の図を見ていただきたいと思っております。都心機能別拠点、地域拠点等々伝える必要がございますけれども、拠点ネットワークによる都市構造という形で、多角連携といったイメージを少し、そういった拠点みたいなところの項目のイメージということをもとめた質問となります。

続いて、右側の上のほうで、各区となっている5章ということで、区別構想ということになってございます。自治協議会の皆様からご議論いただいた内容の部分が、区の概要等々と記載しているというところでございます。

その下、第6章、実現に向けた取組みということで、私どもは都市計画課という部署になりますけれども、都市計画制度を活用した取組みですとか、「にいがた2km」から鳥屋野潟南部開発という、先ほど市長もお話をされていたようですけれども、あと農村集落の振興みたいな部分の主要のプロジェクトを紹介、記載していきたいと考えてございます。

1枚めくっていただきまして、将来のイメージ図というところになります。都市計画マスタープランは、今パブリックコメントをかけさせていただいている、計画の部分が全体で150ページくらいになっているものが、もちろん範囲の計画でございます。どうしても文字中心で分かりにくいというところもありますので、イメージの共有ということの1面ということで、この度私

どもは初めて、①都心から③田園集落のイメージということで、イラストに文字を添えたものを入れ込みさせていただいています。廃止したものについては1枚にまとめてございますが、字が小さくなって恐縮ですが、実際のはそれぞれが1枚ずつ、A3 くらいの大きさでとご理解いただければと思います。

なお、これはいわゆるイメージ図でございますので、実在する場所ということではなく、都市計画マスタープランの目指す方向性の要素を、かなり将来の部分も含めて凝縮して記載をしたイメージ図となっております。都市での活動や暮らすイメージをイラストで分かりやすく示すことで、一緒に将来図を考えて実現を目指すということとさせていただければと思いますので、ご覧いただいて、これはたしかにそうだとか、これは違う、まだまだ先だということ、少しやり取りの話をさせていただき今後のきっかけになればということで作らせていただきました。

1枚目に戻っていただきまして、4. 今後の予定というところでございます。先週3月20日に市報にいがたでご案内をさせていただきましたけれども、3月22日から4月21日ということで、パブリックコメントを現在、実施しているところでございます。詳細の内容につきまして、市のホームページ、パブコメと検索をしていただきますと、現在募集している政策というところの部分でご覧いただけると思います。恐縮ですが、お願いしたいと思っております。

また、区自治協議会、地域総務課、出張所、私どもの都市政策課にも紙のものがございますので、ご覧をいただけるという状況になってございます。委員の皆様におかれましては、選出交代等々、皆様にもお伝えいただくなど広報にご協力をいただけると幸いです。

もう1点でございます。今後の予定のパブリックコメントの募集に併せて掲載写真募集ということとさせていただいていますが、いわゆる冊子の中に盛り込む写真を今、募集させていただいております。写真を使うことで、イメージがさらに分かりやすくなることと、魅力の再発見をしていただく機会とかこういった計画を手にとっていただく機会をつくっていただくことでの取組みがございます。併せてお声掛け、広報にご協力をいただけると幸いです。よろしくお願いたします。

○小林会長

ありがとうございました。先ほどの市長の説明と重なっている部分もある

うかと思えます。皆さんから質問をお受けいたしますが、何かございませんか。ないようですが、よろしいでしょうか。もし、またあとで何かこんなものを聞いてみたいという事項がありましたら、地域総務課にでもあげていただいて、また文書回答をお読みいただければと思います。よろしいでしょうか。

次に移らせていただきます。次に、(2) 区ビジョン基本方針について、松屋総務課長からお願いいたします。

○松屋地域総務課長

地域総務課でございます。よろしくをお願いいたします。

それでは、資料 2-1 をご覧ください。市長から自治協議会会長宛ての依頼文となっております。条例の規定に基づきまして、記載のとおり、区ビジョン基本方針につきまして区自治協議会に意見を求めるものであります。区ビジョン基本方針は、区自治協議会に代表される区民と区役所が協働をし、次期新潟市総合計画の基本計画の一部として位置付けられております。

次に、資料 2-2 第 10 回江南区自治協議会がまん延のため、書面での開催となったことからご意見をいただきました。そのご意見に対しまして、事務局からの回答案の一覧となっております。詳細につきましては、のちほどご覧いただきたいと思えます。

次に、資料 2-3 をお開きください。これが、ビジョン基本方針案であります。いただきましたご意見を踏まえまして、基本方針に変更を加えたものとなっております。この基本方針をもとに、来年度よりまちづくりの具体的な取組みを明らかにする区ビジョンまちづくり計画の策定を行っていきますので、引き続きご協力をよろしくをお願いいたします。

○小林会長

今ほどの説明で、何かご質問はございませんか。事前に配付されている資料で、皆さんは内容を確認していただいていると思えますが、もし、また何かあとで疑問等がございましたら確認してください。

続きまして、皆さん、これはあとでいいですね。確認は。

○松屋地域総務課長

また何かございましたら、私にご連絡いただきたいと思えます。

○小林会長

では、今現在は意見なしということで処理したいと思えます。

続きまして、自治協議会の提案事業の評価について、各部会長から説明をお願いいたします。まず、まちづくり部会、田村部会長。

○田村委員

テーマは、江南区モビリティプロジェクトということで、大江山や両川のバスの運行を最初検討しようということだったので、コロナの関係でなかなか有識者等々を呼べないということで、地域にあるお宝のパンフレット、こんなふうになるものを少し集めてみまして、そこで曾野木と横越の本村の部分にそういった紹介するマップがないということで、今年令和3年度、曾野木から先にやろうということで、曾野木地区のまち歩きマップの制作を進めさせていただいたということでございます。曾野木コミュニティ協議会からも、いろいろ自治会長からも手伝っていただきまして、これから部会等でほぼ完成品を見させていただくのですが、先ほどちらっと休憩時間に見てたら、非常にいい感じのものがあるのでよかったです。

あと、作成に向けた取組みで中段に、11月18日13時から17時、地域総務課で車を用意してもらい、まちづくり部会は曾野木地区を巡ったのです。私も江南区に住んで40年以上するので、なかなか曾野木地区は大きい道を通るだけで細かいところまで分からなかったのですが、非常にないようでいろいろなものがあるということが分かりまして、まちづくりの実施した日の区役所に帰ってきてから、小学校のときにみんなで遠足に出掛けたような感じの、非常に充実した感じで戻ってきた覚えがあります。コロナもなければみんなで1杯やって、非常にさらなるいい意見が出たのではないかと思います。非常に部会の皆さん和気藹々ということで、いい感じで開催させていただいたということで、その流れを汲んで部会を開かせていただいて、これが終わりましたら見ますけれども、いいものがあったのではないかと思います。

それから、2、親善大使を使ったキャラクターということで、これも江南区を自治協議会でPRしようということで、シールやクリアファイルを増刷させていただいたということでございます。細かいものは省略させていただきますけれども、ざっと事業の評価としては、まずまずうまくいったのではないかと思います。

○小林会長

続きまして、安心安全部会の山崎部会長、お願いします。

○山崎委員

安心安全部会から報告いたします。事後評価についてということでございます。私たちは、災害発生時などにおきまして、具体的にどのような備えが役に立つのか。どのような対応が必要なのかというところで、皆さんから習得していただくためにPR活動を実施したり、子どもから大人までが助けあい、ささえ合いを考えるきっかけをつくり、だれもが安心安全に暮らせるまちを目指して事業を行ってまいりました。

今年度は、区役所だよりに防災Q&Aを連載するほか、助け合い絵本の配布、安心安全グッズといたしまして、反射キーホルダーやLEDランタンを作成し、配布をいたしました。内容や実績などは記載のとおりでございます。ここに届いていますけれども、こんな形のものでございます。本会議が終わったら、どうぞご覧になってください。

事業の評価ですが、区だよりなどを活用いたしまして、効率的に防災に関する広報ができたと思っております。また、安心安全部会で作成いたしました助け合いの絵本を通じ、地域でも読み聞かせが行われるようになったり、グッズの配布をとおしまして、安心安全の啓発ができたと思っております。

○小林会長

ありがとうございました。続きまして、環境・教育部会の間島部会長、お願いします。

○間島委員

環境・教育部会から、多世代交流2大プロジェクトについて報告をさせていただきます。子どもから高齢者まで多世代が交流する事業を検討し、実施いたしました。11月3日に横越地区で、制限時間内にチームワークでゴミを拾い、ゴミの量と質でポイントを競い合うスポGOMI大会in江南区を開催いたしました。20チーム、80名の参加がありまして、親子だったり、企業のグループで申し込みがあったりと、いろいろなチームが参加してくださいました。回収したゴミは34.85キロとなりまして、地域の良好な環境づくりに寄与できたと思っております。

分別しながらゴミを拾うため、改めて環境美化を考える機会となったほか、参加チームからの満足度も高いイベントとなりました。

○小林会長

ありがとうございました。続きまして、地域課題解決サポートプロジェクトについて、これは私からあげさせていただきます。

これは、曾野木コミュニティ協議会、亀小コミュニティ協議会、亀田西小コミュニティ協議会より、記載のとおりご活用いただいております。利用評価としまして、コロナの関係もありますので、三つのコミュニティ協議会の協議会の活用にとどまりました。事業も3年目を迎えておりました、本事業のあり方の検討について、さらに考えていく必要があるのではなかろうかと考えております。

また、今年度で終わりでございませぬ。来年度の4年度も継続してまたいろいろ模索するところがあるかと思ひます。全体をとおして、ご意見や質問がありましたらお答えいたしますが、四つの事業に対して何かご質問はございませぬか。再度、これは各部会でさらなる協議を重ねていただければと思ひております。

5. 報告

(1) 全体委員研修会の記録について

○小林会長

続きまして、5、報告に移らせていただきます。全体委員研修会の記録について、私からお話させていただきます。まず、本日配付しました、令和3年度新潟市自治協議会委員研修会の記録のとおり、令和3年12月9日に市全体の区自治協議会研修会が開催されました。当日は、新潟医療福祉大の渡邊教授の講演や、秋葉区、東区自治協議会の運営方法についてのご紹介がございました。詳細については、のちほどご覧いただければと思ひます。

それから、第1回江南区自治協議会については、新型コロナウイルス感染症の関係によって書面の開催としましたが、その際、区自治協議会の運営についてもご意見をいただいているところです。参考資料1、2、令和3年度第10回江南区自治協議会、書面開催で各委員からのその他ご意見について、次のとおりとなっております。このあとで、お読みいただければと思ひます。

以上、大体的内容です。早いもので、第8期の自治協議会も1年が経まして、もう残すところあと1年という形になっております。各自治協議会のさらなる活性化に向けて、このほか様々のご意見があると思ひます。全委員の

皆さんのアンケート等をまた取りまして、できることからかなえていければと思っておりますが、何か改善をしていきたいといろいろ考えているところがございます。

報告に関しては、大体委員のところには、これで終わりになりますが、今まで全体をとおしての何かご意見やご質問等がございましたらお受けしたいと思えます。いかがでしょうか。ございませんか。

6. 連絡事項・その他

○小林会長

ありがとうございました。それでは、時間も過ぎてまいりましたので、連絡事項を事務局にお渡ししますので、よろしく願いいたします。

○土田地域総務課長補佐

事務局より報告させていただきます。「退職職員紹介」ということで、3月31日付けで退職になります事務局員からひとことずつ挨拶をさせていただきます。

(退職職員あいさつ)

○土田地域総務課長補佐

ありがとうございました。次に、「異動職員紹介」ということで、4月1日付の人事異動に伴い、異動になります事務局員からひとことずつ挨拶をさせていただきます。

(異動職員あいさつ、紹介)

○土田地域総務課長補佐

ありがとうございました。新たに転入される方については、参考資料3として配布していますので、後ほどご覧ください。次にその他の連絡事項として、いくつか報告をさせていただきます。

はじめに、参考資料4として、年間の自治協議会の日程を配布しています。議会日程等により変更となる場合もございますが、後ほどご確認ください

次に、江南区親善大使ポロシャツの受注販売についてです。本日配布しました「江南区親善大使ポロシャツの受注販売について」をご覧ください。江

南区親善大使をデザインしたポロシャツを作成しますので、地域での活動などで着用していただきたく、注文票を配布させていただきました。着用いただける団体につきましては、申し訳ございませんが、(裏面)6月10日となっていますので、5月の自治協議会までに地域総務課までご連絡お願いいたします。

次に、部会の開催について、ご連絡いたします。このあと、本会議終了後に部会を開催いたします。「まちづくり部会」委員の皆様は、301会議室へ、「環境・教育部会」委員の皆様は、203会議室へ、「安心安全部会」委員の皆様は、この会場でお願いいたします。

事務局からは以上です。

7. 閉会

○坂井副会長

本日予定されておりました議事はこれで終了いたしました。令和4年度第1回目の自治協議会は、4月28日(木)の午後1時30分からとなります。会場は、江南区役所3階302会議室となります。

それでは、閉会いたします。お疲れさまでした。

(終了)